

コミュニティ意見懇話会(第1～3回)における委員のこれまでの主なご意見等(※)

※事務局にて整理

| 区分 | サブ | 委員意見 | 対象 |
|------------|--|--|-------|
| 目的意識 | 構成団体間の連携 | <p>○協議会設立という目的を達成したあと、地域の特色に合わせて協議会がどう変化してきたかの検証が重要である。設立後に改めてコミュニティの目的が明確化できていなければ、<u>設立が目的のまま停滞している可能性もある</u>。</p> <p>○アンケート結果で、「今の構成団体で十分」と思っている協議会が多いのが気になる。<u>町内会とは違うものを協議会は求めていることを役員に意識づける必要があるし、参加する市民の意識も必要だ</u>と思う。</p> <p>○アンケート結果で、「活動を増やす」という意見が多いが、財政に対する意識が低いところが気になる。どのように財源を確保して活動を広げていくかというのは、学びの要素として大事である。</p> <p>○「コミュニティの予算を増やすことを目的にコミュニティビジネスを導入しましょう」では誰も本気にならない。<u>コミュニティの未来や理想があり、そこに向けて在りたい姿になるべく予算が必要という共通認識が必要</u>である。</p> | 協議会 |
| | | <p>○協議会は、人との繋がりや自分達で自治運営をしていくことが目的の組織だが、会を進めることが目的になっている協議会があるかも。<u>人との繋がりを作る場で、集まった人たちが対話する場だ</u>という定義づけが必要(もっと構成団体同士の対話が必要)。</p> | 協議会・市 |
| 市民意識啓発 | | <p>○「家庭や仕事」と「コミュニティ」がトレードオフの関係になってしまい、結果として時間に余裕がある人材(高齢者)しか集まらないという構造になっている。家庭とコミュニティはトレードオフではなく一体である。家庭だけでなくコミュニティにも子どもを支える仕組みができれば、人々の幸福感の向上や貧困対策にもつながる。その議論が一向に進まないことがジレンマである。</p> | 協議会・市 |
| 参加・参画 | ICTの活用 | <p>○地域活動は参加・参画する人の固定化を回避するためにも、<u>時間と空間に縛られることなく、参加や活動のフィードバックできる工夫をした方が</u>良い。例えば Zoom を使えば、会議の内容を見直すことができ、当日会議に出席できなくても、ついていける。</p> | 協議会 |
| | 情報発信 | <p>○地域に関わりたいと思う若い世代や学生が増えてきていると感じる。谷山のプランをみて地域の課題と資源、そこから立ち現れるビジョンなどが、わかりやすく見える化されていることは大事だと感じた。若い世代は、わからないことはすぐインターネットで調べるので、SNS やネットにすぐ出てくる状態になっていると、何かのきっかけになると思った。</p> | 協議会・市 |
| | | <p>○既存の役員やコーディネーターなど意識の高い方々を育成する以外にも、<u>母数をもう少し取り込まない</u>といけない。今後の取組として、その緩やかなコミュニティづくりのきっかけづくりも必要となる。</p> <p>○参加促進を呼びかけるのは、若年層だけでなく、<u>若年層及び”小中学生”</u>が良い。小中学生をどうやって地域に育成するかというところに、保護者は絶対参画してくる。まずは家族連れ、お子様がご家庭から徐々にボトムアップして広げていく仕組みを作った方が将来的にいいかなと思う。</p> | |
| | 協議会と学校の関係 | <p>○若い世代の人たちは「課題解決のため」となると、ちょっとネガティブなエネルギーが働き、多少抵抗のある人たちが集まる。実際の地域活動はもっとポジティブだし、自分たちのライフスタイルにも深く関わってくる要素が次のビジョンで定義されると、若年層に関わりたい人達が増えると感じた。</p> | |
| | 財政支援 | <p>○例えば、予算を小中学生と絡んだ事業で10万円とかすると、何かやるかもしれない。学校側もコミュニティスクールに関して何かしらのアクションを求められている。財源とかきっかけづくりをどう作るかが結構ポイント。</p> | 市 |
| リーダー・担い手育成 | 参加・参画 | <p>○役割の負担が重たいのであれば、「<u>1人1つはなにか仕事をしよう</u>」ということで関わりを持つ仕組みがあると、協議会が活動するうえでの参考となる。</p> | 協議会 |
| | | <p>○30代位から徐々に地域について学びたい、良くしたいという学習意欲が強まってくるのが、成人学習のニーズの傾向としてある。そこを絡めてなにかできないか。</p> | 市 |
| | | <p>○アンケートをみるに、「活動を広めなければ」という意識は高いが、その具体的な方策や手段等に関する悩みがあるはずなので、解決する学びを保障することが大切。</p> | |
| | | <p>○現場を盛り上げるには、役員の力量形成も必要であると考えさせられた。</p> | 協議会・市 |
| | | <p>○この10年で、まちづくりとかコミュニティ協議会とか概念的なところはかなりインプットされている。<u>次は実践方法を学ぶ人材育成をしないと、具体的に誰が何をすると</u>いうところを落とし込めない。</p> | |
| | ICTの活用 | <p>○事業がほとんど変わらないという課題があれば、<u>事業の作り方や ICT の活用について講師を呼び、一緒に学ぶ場を作るのもあり方</u>の1つ。ただ、地域の中でそれができないところもあるので、市がサポートしてもらえると助かる。</p> | 協議会・市 |
| | | <p>○アンケートの結果として、新しく若い人に参加して欲しいというリクエストがあるが、<u>協議会側が ICT に弱いとか、紙媒体しかない</u>となると、巻きこみたい世代とのギャップがあると思う。</p> | 協議会 |
| | <p>○ICT に強い人がどのような役割を担えば後継者育成につながるのかガイドラインがあったら良い。</p> | 市 | |
| | 協議会と学校の関係 | <p>○主婦層の社会との接点がコロナ下でなくなっている。<u>主婦層の地域参画を促す施策</u>(地域コミュニティに参加している人は PTA 活動免除などの仕組み)があっても良い。</p> | 市 |
| ICTの活用 | | <p>○ICT の導入が目的ではなく、<u>理想の活動に対し足りない難しいところに ICT が補助する構図</u>になるべき。何をしたいのか、どうありたいのかというアイデアをワークショップ等で明確化したのち、それらの思いや願いに ICT がどのように活用できるかが大切。</p> | 協議会 |
| | 財政支援 | <p>○57 万円の補助では、ICT を活用できる人材を事務局として確保するのは難しい。補助の増額を検討してほしい。</p> | 市 |
| 情報発信 | | <p>○ヒアリングした4団体だけでもいろんな特色がある。すべての協議会が共有できる機会が必要。<u>好事例を発信したら</u>よい。</p> | 市 |
| 協議会間の連携支援 | | <p>○近隣の協議会の取組が現状わからない。協議会間の情報交換が役職別にできると良い。</p> | 市 |
| 構成団体間の連携 | | <p>○協議会の立ち上げに携わった経験から、<u>校区運営審議会時代に比べ、校区の地域団体を横の繋がりが</u>生まれたと感じる。発展途上だが、社協と福祉部会と一緒に活動をするようになるなど連携の成果も出ている。</p> | 協議会 |

コミュニティ意見懇話会(第1～3回)における委員のこれまでの主なご意見等(※)

| | | | |
|------------|------------|---|-------|
| コーディネーター | リーダー・担い手育成 | ○地域の課題や意見収集の仕方などが多様化している現状で、住民の活動をどう支援していくか、は専門的な知識が必要。それを学びや参加にどう絡めるかには、コーディネーターの育成が重要。 | 市 |
| | 目的意識 | ○コーディネーターも地域の実情に合わせるだけでなく、 <u>一步踏み込んだ提案をしてもらえるとよい。</u> ○コーディネーターが中に入って一緒に動き、協議会が目指しているところを改めて協議会に示してもらいたい。特に校区運営審議会から協議会に移行したことで、広く地域全部を包括する組織であり、事業所とも一緒に取り組んでいかなければならない。 | |
| | 構成団体間の連携 | ○事業所を巻き込むには、「幸福」というテーマについても本格的に考え、そういったところに、高校生や大学生が次の自分たちが住む地域をどうしたいかという文脈を掛け合わせながらやってほしい。その仕掛けを可能ならコーディネーターに支えてほしい。 | 協議会・市 |
| 行政の連携 | 協議会と学校の関係 | ○学校教育も含めて世の中変わりつつあることを親たちにもっと学んでほしい。多くの親たちは公民館という場に自分のやりたいことを無料で学べる学習権があること自体知らない。校区運営審議会の流れを汲んでいる鹿児島市の協議会は学校と近い関係があるのだから、 <u>地域学校共同活動やコミュニティスクールが整備されるなかで、もっと地域と学校をリンクさせてほしい。</u> | 市 |
| | 目的意識 | ○セーフコミュニティや包括ケアシステムの整備、コンパクトシティ構想などいろんな市の計画があるが、これらを全部コミュニティがつなげていけるとなると、いろいろな組織があるなかでも一緒に取り組んでいかなければならない。その核となるのが、 <u>協議会なのかどうか。その位置づけを懇話会のなかで概念整理ができれば良い気がする。</u> | |
| | リーダー・担い手育成 | ○地域人材が大事であり、学習が必要だということを市民部局サイドも分かってきたことから、協議会の中で学習活動を位置づけて欲しい。学習＝講義形式という発想を取っ払い、 <u>コミュニティでの様々な出合いや新たな情報に触れることにより意識変容が起きていくというプロセスそのものが学習であり、人材育成につながる。</u> | 協議会・市 |
| 協議会と学校の関係 | 情報発信 | ○協議会に学校を取り込めば、学校は地域のことを子供たちに発信していく場にもなる。協議会の活動は全部社会教育だという位置づけを市民局にも持ってもらえればありがたい。 ○コミュニティスクールができたことで学校を核とした地域連携がしやすくなったと感じる。学校と地域連携の好事例を情報提供していく良いタイミングである。 | 市 |
| | 参加・参画 | ○子どもと協議会の関わり方が青少年育成とか、健全育成のルートで入っているから、夏休みの過ごし方みたいな構成になっている。問題をどう防ぐとか、彼らが危険に及ばないようにも大事だけど、やはり子どもをしっかりと迎え入れて、 <u>実際にともに作り上げていく場にしないと、参画させてもうまく機能しないと思う。</u> ぜひ、多くのコミュニティ協議会の方に聞いていただきたい。 | 協議会 |
| 協議会と町内会の関係 | 構成団体間の連携支援 | ○コミュニティ協議会を3つのタイプに整理すると、1つ目は、構成団体を包括的に繋いでいくガバナンス的な機能があるケース。2つ目は、それぞれの自治会が活発で、交流・連携の場としてコミュニティ協議会を使っているケース。3つ目は、企業とかある種の自治とは違う異色のものを呼び込むための入れ子として使っているケース。意外と同じ言葉ではあるけど、実はタイプが違い、多元的である。 | 協議会・市 |